

関係者の皆様へのお知らせとお願い (旭川地区ミニバス選手権大会を目前にして)

指導者、育成会の皆様をはじめ、地区内でミニバスケットボールに関わる多くの方々におかれましては、日々の子どもたちの育成への努力はもとより、本部会の取組に対して、深いご理解とご協力をいただいておりますことに感謝申し上げます。

いよいよ地区内最大の事業である選手権大会が間近に迫ってまいりました。各チームとも最善のパフォーマンスを披露できるよう、余念なく取り組んでいらっしゃると思います。

さて、本日は関係者の皆様へのお知らせとお願いがございました。

まずは、うれしいお知らせです。

東京オリンピックで見事銀メダルを獲得した、日本女子バスケットボールチームの「旭川市出身の町田瑠唯選手」の育成に尽力された功績で、元西御料地小学校(現鷹栖町立鷹栖小学校)の畠山順先生が、令和3年度公益財団法人旭川市スポーツ協会の特別表彰(スポーツ大賞)をいただくこととなりました。畠山先生が育成した子どもたちは、皆バスケットボール好きで熱心。そして、技術的にもメンタル的にも逞しく育っています。この度、その教え子の一人が偉業を成し遂げました。素晴らしいことです。当時一緒に指導をしておられた遠山弘子さんも同時を受賞されました。11月14日(日)に旭川アートホテルにて表彰式が行われます。この度の受賞、本当におめでとうございます。

次に、お願いです。

旭川地区バスケットボール協会 U12 部会長として、本大会実施の成功に向けて多くの皆様へお願いがございます。11月5日の代表者会議の折にも要旨についてはお話いたしました。今一度、確認の意味も込めまして、文書にさせていただきます。

2年近くに及ぶ新型コロナウイルス感染症については、第5派の猛威が減退し、全国や道内においても感染者の減少が顕著になっております。これは、ワクチン摂取率の向上や治療方法や治療薬の開発、さらに医療従事者の努力と設備・組織・体制の拡充など、様々な好要因はあるでしょうが、何より一人一人の感染予防意識の高まりが、日常の活動として習慣化され、特に重要な感染症対策である「手洗い、消毒、マスク、換気、距離、飛沫対策等」が徹底されてきた証であり、その努力については感謝に堪えません。

しかし、旭川市内における近々の状況では、札幌市よりも多い感染者を出し、その人口に換算しても、心配の種があることは否めないと思っております。周りの地域からは、旭川市民の一部に意識の低い方がいるのではと疑われてしまったり、旭川市へ行くことがかつての東京・札幌へ行くことのように用心されていたりする場合もあると聞きます。

これまで、多くの制約に耐えて来られた関係者には、「これ以上どうすれば…」と叱られてしまいそうですが、選手権大会の実施成功に向けて今一度、「絶対に感染しない、させない、広めないこと」を心して、直前の日々を過ごすようお願いいたします。

大会前の選手や関係者の体調管理は、コロナ禍以前からハイパフォーマンスの重要な要素であったことは言うまでもありませんが、多くの約束ごとが事務局・常任理事会・各委員会から出されておりますので、一つ一つの文書を精読するとともに、ぬかりない対応をしていただくようお願いいたします。

各チームの指導者、育成会員の皆様の中で、万が一にも安易な対応やこの時期に軽率と受け止められてしまう行動によってコロナ感染が広まれば、我が子の大会出場機会が失われたり、自チームの関係者に迷惑がかかったり、本大会自体の実施が危ぶまれたりすることになる場合もあるかもしれないと、大会を運営する側としては最悪も想定して心配しております。どうかそのようなことにならないことを願っております。

この大会は、多くの大会関係者の知恵、アイデア、工夫、努力の下、そして協賛される企業の皆様はじめ、多くの方々のご協力で成り立っています。そのことを、それぞれの立場で自覚し、よく考えた行動をお願いいたします。(特に、この時期に飲み会やカラオケをしたいならば、一人で行っていただきたく思います。)

昨年度は、実施した大会一週間前の練習ゲームで、複数のチームに幅広の接触が疑われ、いくつかのチームに影響がでました。

また、練習不足や体力の低下から、けが人が多く発生しているチームもあると聞いています。あくまで昨年と今年は、例年とは全く違った年であることを心して、「子どもたちにとってどうか」を第一に考えて取り組んでいただきたく思います。

長々とお願いを申し述べましたが、本大会成功のため、今一度の感染予防策の徹底をどうかよろしくをお願いいたします。

令和3年11月8日

旭川地区バスケットボール協会
U・12部会長 及川 勝也